

福島第一原子力発電所の事故収束に向けた取り組み

福島第一原子力発電所における事故、および放射性物質の漏えいにより、地域の皆さまに大変なご心配とご迷惑をおかけしておりますことを心より深くお詫び申し上げます。

現在、4月17日に発表した事故の収束に向けた当面の取り組みを以下のとおり進めています。

基本的考え方 (変更ありません)

原子炉と燃料プールの安定的冷却状態を確立し、放射性物質の放出を抑制することで、避難されている方々のご帰宅の実現および国民の皆さまが安心して生活いただけるよう全力で取り組みます。

目標 (変更ありません)

- ・ステップ1：放射線量が着実に減少傾向となっている。(4月より3ヶ月程度)
- ・ステップ2：放射性物質の放出が管理され放射線量が大幅に抑えられている。(ステップ1終了後の3~6ヶ月程度)

取り組み

従来の目標に追加して、5分野の8目標について諸対策を同時並行で進めていきます。

分野	目標
冷却	原子炉を冷却し、冷温停止状態(100度以下)にする。 使用済燃料プールの水位が維持され、安定的に冷却する。
放射性物質の抑制	汚染された水を敷地外に流出しないよう閉じ込め、量を減らす。 地下水の汚染拡大防止と地下水の遮蔽の構築を行う。
モニタリング	周辺の放射線量を測定・公表し、放射線量を低減する。
余震対策等	余震による津波に備え、耐震補強工事を検討実施する。
環境改善	作業員の生活・職場環境の改善を行う。

追加

追加

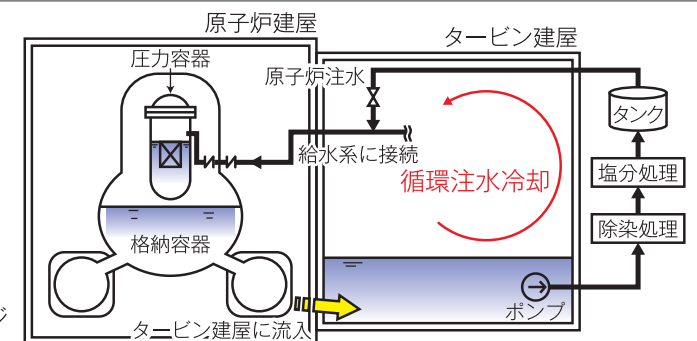
追加

進捗状況

原子炉の冷却に関する優先対策の見直し

1号機で格納容器から冷却水の漏えいが判明したことから冠水作業(燃料域上部まで格納容器を水で満たすこと)に先んじて循環注水冷却を実施します。

循環注水冷却のイメージ



使用済燃料プールの冷却対策の前倒し

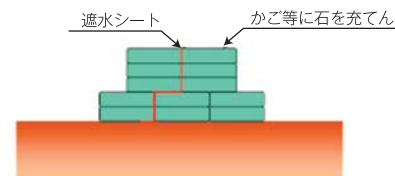
1, 3, 4号機の使用済燃料プールの注水に利用してきた注水装置の遠隔化と、熱交換器の設置を一部前倒して実施します。



注水装置による注水

余震・津波対策の強化

今後の余震による津波に備えて仮設の防潮堤を設置しています。



仮設防潮堤断面図 (イメージ)



施工状況の例

滞留水の増加傾向への早期の対応

メガフロートやタンクを設置して保管場所を追加し、処理施設の運転などにより滞留水を抑制します。



メガフロート

生活・作業環境の改善

夏場に向けた作業員の環境改善として、食事の改善、休憩施設の設置などに着手しています。



休憩施設 (免震棟前)

引き続き、事態の収束に向けて全力を挙げて取り組んでまいります。